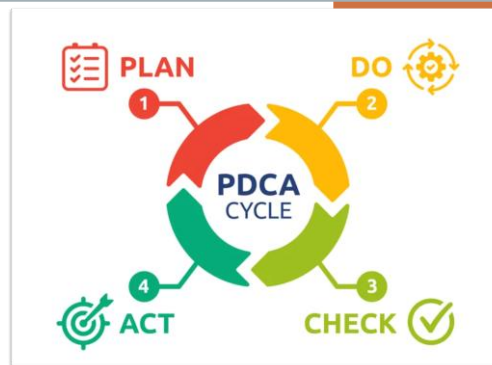


医療安全における業務改善計画



1. 医療安全業務改善計画

- 業務の見直し
- 業務改善計画書を作成し確実な改善を図る



1. 医療安全業務改善計画

業務に課題がある場合には、その業務の見直しを行います。単純に業務改善を行うというのではなく、業務改善計画書を作成し確実な改善を図ることが必要です。

業務改善計画の立案から業務改善を成功させるポイントや注意点について学習していきましょう。そして、業務改善を成功させるための参考にしてください。

1) 業務改善計画とは

業務改善計画とは
立案する目的や達成する目標を、あらかじめ決めておく

(1) 業務改善計画を立案する目的

- 「現状の課題や最終的なゴール、ならびに実施する方法について整理し共通認識を持つ」
- 業務改善後は、課題を解決することや結果的に効率化などを測っていることを測定すること
- 業務改善による期待効果や測定方法についても明確にする

1) 業務改善計画とは

業務改善計画とは何かについて、最初に解説していきましょう。業務改善計画を立案する目的や達成する目標を、あらかじめ決めておく必要性についても理解をしておくことが必要です。業務改善計画の根幹の部分在这里で理解しておきましょう。

(1) 業務改善計画を立案する目的

そもそも、業務改善計画を立案する目的をどう考えていけばいいのでしょうか。文字通り業務改善を行う上での計画です。

業務改善計画書を作成する目的は、「現状の課題や最終的なゴール、ならびに実施する方法について整理し共通認識を持つ」ということです。単純に改善を行うという言葉だけでの実施では、関連部署との共通認識を持つことができないだけでなく、改善における効果を測定する基準を明確にすることができません。

業務改善をおこなった後は、課題を解決することや結果的に効率化などを測っていることを測定することが必要になります。業務改善計画を立案することで、業務改善による期待効果や測定方法についても明確にすることが可能になります。

(2) 業務改善計画で達成する目標

「業務改善計画の実施による達成目標」
記載する目標は、結果測定のためにできるだけ数値化しておくことがポイント

例

「〇〇時間削減」「納期を〇〇日短縮」や「発生率を〇〇削減」等
数値化し、業務改善前と後の比較も容易となる

「モチベーションのアップ」
「作業が楽になった」など数字で表しにくい評価も存在する
5段階満足度評価などを取り入れる

※注意
数値化に拘り過ぎない

(2) 業務改善計画で達成する目標

業務改善計画に明記する中で最も重要な項目が「業務改善計画の実施による達成目標」です。記載する目標は、結果測定のためにできるだけ数値化しておくことがポイントです。

例えば、「〇〇時間削減」「納期を〇〇日短縮」や「発生率を〇〇削減」等のように数値化しておくことで、業務改善前と後の比較も容易となります。目標の中には数値化が可能な事柄ばかりではありません。「モチベーションのアップ」「作業が楽になった」など数字で表しにくい評価も存在します。

こうした評価については、5段階での満足度評価などを取り入れることで数値化することも可能です。注意しておきたいのは、数値化に拘り過ぎて感情面などの達成感を無視しがちになることです。定性評価の意見についても重要な目標となります。

2) 業務改善計画の立案ポイント

- (1) 目的の整理
- (2) 業務の可視化
- (3) 自動化の検討
- (4) PDCAサイクルの実施



2) 業務改善計画の立案ポイント

次に業務改善計画書を立案していく上でのポイントです。業務改善のステップとして、いくつかの推進ステップがあります。

業務改善計画を立案する際に盛り込んだ方が良いポイントは以下の4つです。

- (1) 目的の整理
- (2) 業務の可視化
- (3) 自動化の検討
- (4) PDCA サイクルの実施

まずは(1) 目的の整理から見ていきましょう。